

コミュニケーション中原 Communication Nakahara

中原自治会広報部

中原自治会館：横浜市磯子区中原3-6-24 ◇Tel・Fax：(771) 9401

ホームページアドレス：http://www.nakahara-jitikai.yokohama/

今月は屏風ヶ浦地区連合町内会の会議がありませんでしたので、特別紙面です。

I. 中原自治会よりの連絡・報告

II. 中原自治会の歴史

屏風ヶ浦社会福祉協議会広報紙の記事を再編集し加筆したものです。

III. 中原老人会「睦和会」予定

IV. 中原のこと (11) ～路傍に残る庚申塔～

中原に残る庚申塔の話

I. 中原自治会よりの連絡・報告

新型コロナウイルス感染症の拡大により、神奈川県は緊急事態宣言を9月12日まで延長することとしました。このような状況を考慮して中原自治会の活動も自粛してまいります。

1. 集金日

財務部より

8・9月の集金日は次の通りです。

(1) 9月19日(日) 10:00～12:00

(2) 10月17日(日) 10:00～12:00



2. 年3回の日赤や赤い羽根などの募金について

福祉厚生部より：

6月のコミュニケーションでお知らせいたしましたとおり、新型コロナウイルスの感染が拡大しておりますので、年3回ある募金(日赤募金・赤い羽根共同募金・年末たすけあい募金)を10月に一括してお願いして、集金させて頂く事に致しました。10月の評議委員会で詳細についてお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。



3. 2021年度 消火器購入・薬剤詰替・廃棄等について

今年度も横浜市防災機器販売協同組合より標記事業についての回覧依頼がありました。評議員さんにお願ひ：ご希望の方がおりましたら9月30日(木)までに申込書を中原自治会館のポストに投函してください。よろしくお願い致します。

Ⅱ. 中原自治会の歴史

中原は半農半漁を営む小さな集落でした。明治となり久良岐郡屏風浦村が誕生した時は森中原と呼ばれていました。昭和2年に森・杉田が横浜市に編入されたときに磯子区中原町となりました。このように中原は森と杉田に挟まれた小さな集落でしたが、いつも森や杉田と肩を並べようと頑張ってきました。

1. 中原自治会の誕生

中原自治会の歴史をひも解くと、自治会・町内会の歴史が見えてきます。中原自治会は旧住居表示の中原町に結成された地域団体です。

戦後、GHQは戦前・戦中にあった隣組を中心とした住民組織を禁止するポツダム政令を発令しました。一方で、新たな民主的共助組織を作るような命令も出しました。昭和27年にサンフランシスコ講和条約が発効されるとポツダム政令は失効し、町内会・自治会が再組織化されるようになります。

中原でも町の有志が集まり自治会組織を作ろうと動き始め、昭和29年に自治会結成準備委員会を立ち上げました。準備委員会では規約の作成をはじめ、自治会への勧誘活動を行い、同時に自治会館の建設を進めました。その結果、昭和32年に中原自治会が580世帯で結成されました。

発足後は自治会活動を精力的に行いました。生活環境の改善では当時のゴミ収集は月1回でしたので夏場はハエが増え問題になっていました。そこで自治会役員による消毒剤の散布を積極的に行うとともに、各家庭に消毒薬の配布を行いました。また、福祉活動では一日バス旅行を計画し大変喜ばれたようです。

昭和40年6月豪雨では中原3丁目の京浜急行線路側の住宅が床上浸水する災害が発生すると、久良岐丘自治会と共同で排水管の整備を行政に要望して実現させました。

現在、国道16号に歩道とガードレールが設置されていますが、これも中原自治会が中心となり屏風浦地区連合町内会が横浜市に要望して実現したものです。



旧会館（中原2丁目）
消防団の器具置場と火の見櫓が併設されていた。

2. 中原自治会の法人化と新自治会館の建設



新会館（中原3丁目）

平成23年3月に発生した東日本大震災は私たちの生活に大きな被害を与えました。中原自治会館も損傷を受け、自治会館の建替えの必要性が検討されるようになりました。そのような中、横浜市から町内に市が所有する土地の有効活用の話が提起され、その土地に新しい自治会館を建設することが総会で承認されました。

新しく自治会館を横浜市の補助金を活用して建てるには自治会を法人化する必要があります。そこで、これまで

の任意団体から認可地縁団体へ移行する手続きを進め、平成25年11月に法人の認証を受け、平成27年12月に新しい自治会館が横浜市の土地を借り受け、横浜市の補助金を活用して完成しました。なお、消防団の器具置場は中原公園に移りました。

3. 会員との繋がり ～コミュニケーション中原(中原自治会広報紙)～

中原自治会では広報紙である「コミュニケーション中原」を毎月発行して回覧しています。

「コミュニケーション中原」も令和3年9月で259号になりました。現在、中原自治会ではこの「コミュニケーション中原」を全号所蔵していません。みなさんの中で昔の「コミュニケーション中原」をお持ちの方がおりましたら中原自治会に寄贈頂けると幸いです。



4. 中原自治会の課題

新型コロナウイルス感染症の拡大により自治会活動も大きな影響を受け、残念ながら主な行事を中止せざるを得なくなっています。

自治会には大きな課題があります。一つは自治会加入者の減少です。価値観が多様化し、自治会に加入するメリットが見いだせない、近所との付き合いが煩わしいなどの理由があります。街灯の管理やごみ収集などの住みやすいまちづくりを行っているのですが・・・。

もう一つの課題が役員の高齢化です。これは自治会だけでなく他のボランティア組織も抱える課題です。また、自治会の仕事を引き受けると大変だと敬遠され、新しく役員になる方がいません。

自治会活動は私たちの住むまちが安全で安心して暮らせるまちづくりを行っています。ぜひ自治会活動はボランティアになりますが、生涯学習の一環と考えて積極的に参加していただけることをお願いします。

○ 余談・・・中原出身の有名人～黒川弥太郎～

若い人は知らないと思いますが、太平洋戦争の戦前戦後を通して「黒川弥太郎」という時代劇スターが活躍していました。この方は中原の出身です。

明治43年生まれで、中原の青年団で演劇をやり注目を集め、昭和8年に新国劇に入りました。その後、昭和10年に日活京都に入り時代劇スターとなりました。戦後は舞台やテレビでも活躍しました。

Ⅲ. かがやきクラブ磯子中原睦和会 令和3年9月 行事予定表

9月の定例会はありません。グラウンドゴルフとラジオ体操の予定をお知らせします。

項目	場所	日	時
1	グラウンドゴルフ	中原公園	毎週火曜日と金曜日 8:00～10:00
2	ラジオ体操	松の内公園	毎朝 6:30～7:00

IV. 中原のこと その11 ～路傍に残る庚申塔～

会長 金子善政

今回は中原に残る庚申塔の話をしたと思います。現在、中原に庚申塔は願行寺と中原3丁目に残っています。ここでは中原3丁目にある庚申塔について話します。

中原2丁目にある京浜急行の跨線橋を渡り、左に行くと以前紹介した見守地蔵があります。庚申塔は跨線橋を渡り右に行き坂を上る途中の分かれ道にあります。分かれ道を左に行くと熊野神社方面へ、もう一つは山の尾根道をたどり栗木方面・金沢道に出る古道です。

この庚申塔は江戸時代に設置されて以来ずっとこの地にあり、町を守ってきました。信州安曇野のような所であればみんなに大切にされたかもしれませんが、この庚申塔は近年に2回壊されています。昭和37年に壊されたときは町の有志が寄付金を出し再建して由来記を作りました。最初の由来記には庚申塔の由来、寄付者名と金額、支出内容が記されていました。2回目に破壊されたのが平成29年です。この時は自治会で再建する話がまとまり、由来記も新しくしました。下の由来記は現在の物ですが、読みづらくなっていた前の由来記を解説して新しく作成しました。

庚申講は旧暦で60日に一回巡ってくる庚申（かのえさる）の日に徹夜をし、三尸（さんし）の虫が体内から抜け出し天帝にあることないことを報告して寿命を縮めないようにする風習です。この講を3年かけて18回行くと成就し、記念に庚申塔を建てました。それが中原では由来記にあるように疫病を防ぐために祈る講に変化したのかもしれませんが。庚申塔のある場所は山を越え、中原の街に入るところです。

享保12年は1727年ですが、1707年の宝永4年に富士山が噴火しています。宝永噴火です。噴火は約4週間続いたようですが、中原にも火山灰が降り、社会が不安になったと思われます。このような中で中原でも庚申講が行われたと妄想しています。



壊される以前の庚申塔。
現在の塔には修理の跡が残っています

中原村庚申塔

「享保十二年正月吉日 中原村講中」と塔にある。
享保十二年は西暦一七二七年、徳川幕府八代將軍吉宗の時代である。当時は庚申信仰が広まり、中原村でも疫病が他から入らないようにと庚申講が行われた。講の大願が成就した際に中原に入るこの辻に庚申塔を建立したと思われる。

塔の上部に日と月、中心に一面六臂の青面金剛と脚下に悪鬼、下部に三猿がある。六臂に法輪、弓、矢、劍、錫杖を持つ。もう一つはシヨケラ（女人）と思われる。不幸にも庚申塔が壊された。中原自治会では約三〇〇年間この辻で中原を守ってきた庚申塔を、中原の貴重な文化財として再建し後世に残すこととした。

平成三十年三月吉日

中原自治会